

## 彩北航路フォトコンテスト2019

### ポスター部門 最優秀賞 安達 鈴香さんの受賞メッセージ

礼文島は「花の浮島 礼文島」のキャッチコピーが印象には残ってはいましたが、どんな島なのか想像はついていませんでした。実際に島に訪れるとあちこちに見たことのない綺麗な花が咲き、海や空の青が広がり、鳥たちの声が聞こえ、とても素晴らしい島だと思いました。

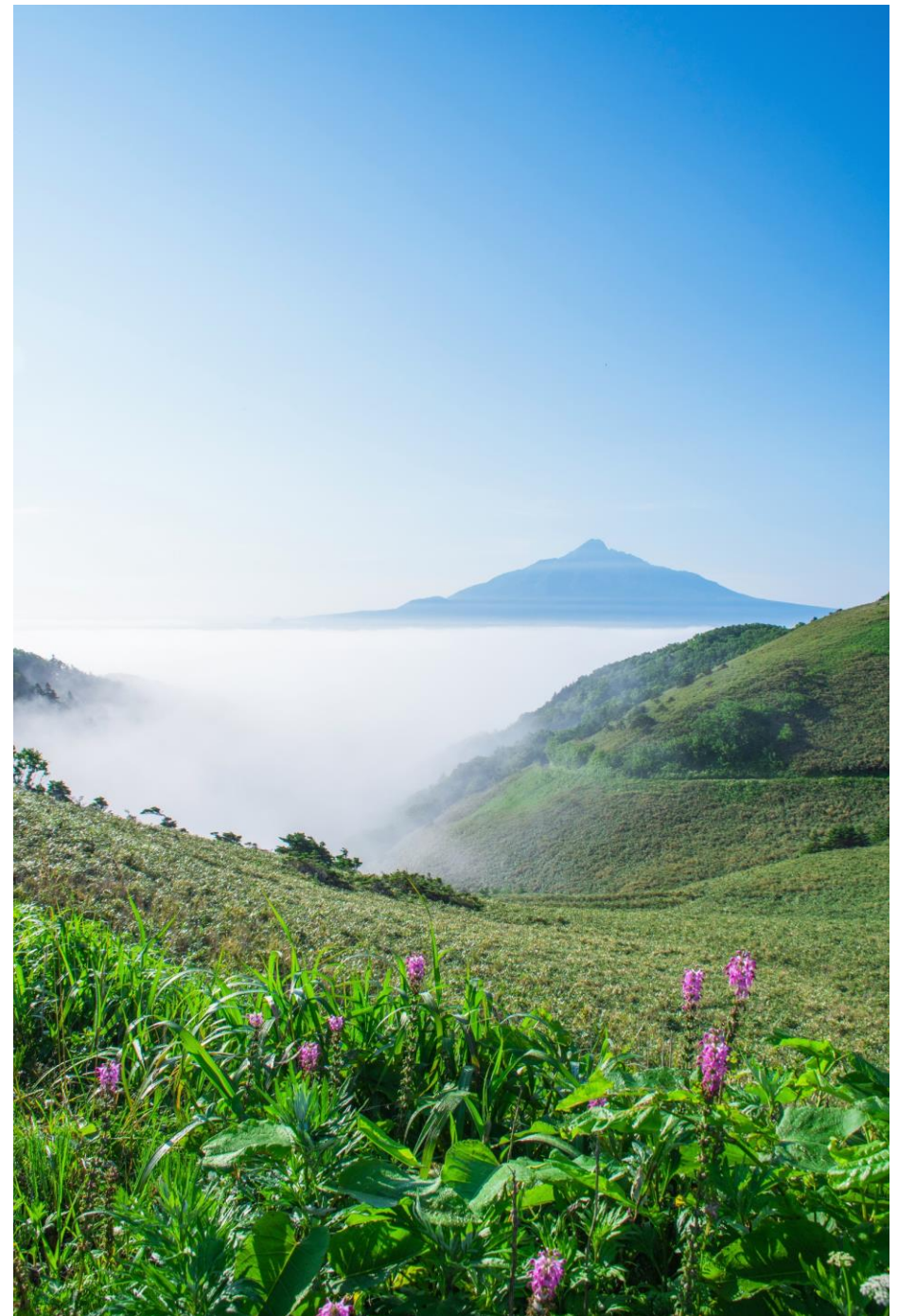
フォトコンテストは、礼文島NAVIという観光パンフレットやA4チラシ、ホームページなどから知りました。ポスターには選ばれないだろうけれど、何かで私の見た景色が共有されたら嬉しいなと思いながら応募しました。

この写真は、トレッキングにチャレンジした時の写真です。利尻山が見えるポイントについても、もやがかかり山のてっぺんがちょっこり見えている、そんな状態でした。ただ少しずつ日がのぼると、目の前のもやが晴れてきて雲海のようになり、利尻山がはっきり見えてきました。「これはシャッターチャンス！」と慌ててシャッターを切った一枚です。

今年のポスター写真はどんなのが選ばれたんだろうと結果を見てみると、自分の写真だったので、いやいや、まさか、そんなはずは、と5回ぐらい見直しました。後日電話でも連絡いただき、改めて間違いではないことを知り、正直とても驚きました。私が礼文島で出会った美しい時間を、みなさんと共有できることにとても嬉しく思います。

この度は私の写真を選んでいただき、ありがとうございました。礼文島の豊かな自然や出会った温かい人々、ゆったりとした島時間は、私の大事な思い出の一つです。この写真を使って、礼文島の魅力がたくさんの人に伝わってほしいと思います。

安達 鈴香



彩北航路フォトコンテスト2019  
自由部門 最優秀賞 上田 龍太郎さんの  
受賞メッセージ

初めて礼文島を訪れたのは1986年、今から33年前になります。その頃に比べて建物やフェリー、道路など近代化されたと感じる点は多いものの、美しい大自然と島民の方々の優しい人柄は今も昔も変わらないと感じています。

フォトコンテストは稚内港フェリーターミナルで偶然ポスターを見かけ、この写真コンテストを知り、普段から写真撮影が好きで、今回の礼文島訪問の目的も写真を撮ることであったため迷わず応募してみることにしました。

この写真は、これまで礼文島には5回ほど訪れていますが、今回は33年ぶりに澄海岬からスコトン岬に至る西海岸の散策路を歩いてみました。この日は晴天に恵まれ、最北の島といえども汗だくになりながら歩きましたが、鉄府を過ぎてゴロタ岬に上がる途中で澄海岬の方向を振り返ると夏の穏やかな海を進む漁船の航路がとても美しく、心と身体が癒されました。

過去の入賞作品を拝見すると、どれも素晴らしい写真ばかりで入賞者の方々のレベルも高く、まさか私が入賞できるなんて思いもしませんでした。日本全国の離島を旅している私の中でも日本最北の礼文島は特別な思い出がある島であり、その島の美しい情景を切り取った写真でこのような大きな賞をいただけることは望外の喜びです。今後も礼文島の魅力をできるだけ多くの方々に伝えられるように微力ながら努力していきたいと思っております。

上田 龍太郎

